

平成24年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成24年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ヤリイカ

学名 *Loligo bleekeri*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 1歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～4月)、九州～東北の沿岸各地
索餌期・索餌場: 夏～秋季(8～12月)、九州～東北の太平洋側、北方の冷水域では浅く、南方の暖水域では深い傾向がある、土佐湾では水深100～250mの底層
食性: 外套背長50mmまでは主に小型の浮遊性甲殻類、成長とともにより大型のオキアミ類やアミ類、170mm前後からは魚類
捕食者: 不明

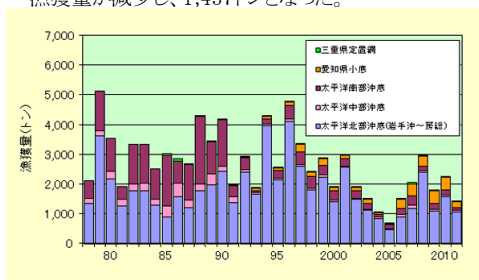


漁業の特徴

主に底びき網等で漁獲される。太平洋北部海域(岩手沖～房総)では1そうびきオッターコントロール沖合底びき網(沖底)、太平洋中部海域(伊豆沖～熊野灘)では1そうびき沖底および愛知県外海小型底びき網(小底)、太平洋南部海域(紀州沖～薩南海域)では主に2そうびき沖底により漁獲される。また定置網でも漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は1978～2011年では700～5,100トンの間を増減し、1979年に最高の5,121トンとなった。1990年までは北部と中部・南部はほぼ同程度であったが、1991年に南部沖底で急減し、以後は北部が大部分を占めている。2005年に最低の682トンとなったが、その後増加して2010年に2,249トンとなった。2011年には東日本大震災のために北部での漁獲量が減少し、1,437トンとなった。

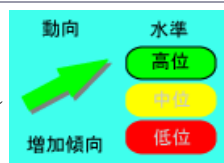


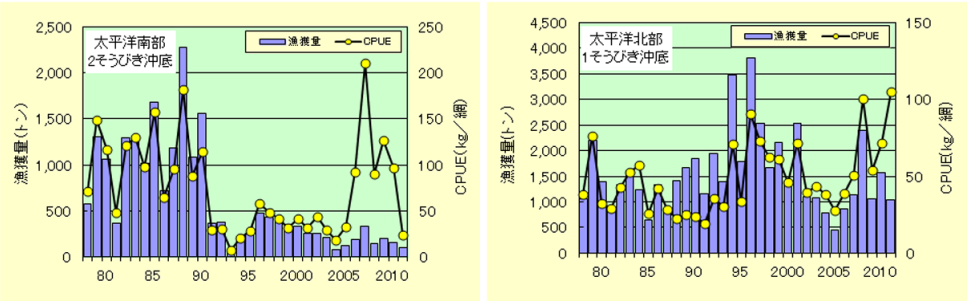
資源評価法

太平洋北部と太平洋中部・南部とでは、資源指標値の変化傾向が異なるため、両者を分けて資源評価を行った。太平洋北部では1そうびきオッターコントロール沖底のCPUEを、中部および南部では2そうびき沖底のCPUEを資源量の指標とした。系群全体として、漁獲量の大部分を占める北部での結果を優先した。

資源状態

北部1そうびきオッターコントロール沖底のCPUEは、有効漁獲努力量の増加した1988～1993年に低水準が続いたが、1996年に高水準となった。その後減少して2002～2006年には低水準となったが、2008年には高水準、2009・2010年には中水準となった。2011年は大震災のため有効漁獲努力量は大幅に減少したが、漁獲量はあまり減少しなかったため、CPUEは高水準となった。南部2そうびき沖底のCPUEは、1990年まで中水準を基調に高～低水準の間を変動していたが、1991～2005年は低水準が続いた。2006～2010年では中～高水準となったが、2011年に大幅に減少して低水準となった。





管理方策

水準・動向が高位・増加にある本資源の管理目標としては、資源の有効利用を図るべきである。 $\delta_1 \cdot \text{Cave} \cdot \gamma_1$ として、北部と中部・南部それぞれのABClimitを算出した。 δ_1 は資源状態によって決まる係数(北部1.0、中部・南部0.6)、Caveは2009～2011年の漁獲量の平均値、 γ_1 は資源量指標値の過去3年の傾きと平均値から求める係数(北部1.33、中部・南部0.37)である。北部と中部・南部を合算して、系群全体のABClimitとした。これに安全率0.8を乗じてABCtargetとした。東日本大震災後の北部での漁獲努力量の変化を見守る必要がある。

	2013年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,800トン	$\delta_1 \cdot \text{Cave}3\text{-yr} \cdot \gamma_1$	-	-
ABCtarget	1,400トン	$0.8 \cdot \delta_1 \cdot \text{Cave}3\text{-yr} \cdot \gamma_1$	-	-

- 平成24年度ABC算定規則が改正され、ABCは $\text{ABClimit} = \delta_1 \cdot \text{Ct} \cdot \gamma_1$ 、 $\text{ABCtarget} = \text{ABClimit} \cdot \alpha$ で計算した
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算をし、kは係数(標準値の1.0)、bとlは漁獲量の傾きと平均値(直近3年間)である
- 太平洋北部のABClimitは $1.0 \cdot \text{Cave}3\text{-yr} \cdot 1.33$ で1,652トン
- 太平洋中部・南部のABClimitは $0.6 \cdot \text{Cave}3\text{-yr} \cdot 0.37$ で130トン
- 両海域のABClimitを合計して太平洋系群のABClimitを算出
- ABCtargetは安全率0.8をABClimitに乗じて算出
- 100トン未満は四捨五入

資源評価のまとめ

- 北部1そうびきオットートルール沖底のCPUEから、北部では高位・増加
- 南部2そうびき沖底のCPUEから、中部および南部では低位・減少
- 東日本大震災の影響を含んでいるが、漁獲量の多い北部を重視して、系群全体として高位・増加

管理方策のまとめ

- 北部では資源の有効利用を図るべき
- 東日本大震災後の北部での漁獲努力量の変化を見守る必要
- ヤリイカ漁獲量と水温との関係から温暖化の影響が示唆される

執筆者: 梨田一也・阪地英男

資源評価は毎年更新されます。